

サッポロ珈琲館【Rinboku】

(北海道林木育種場旧庁舎)





北海道・江別市

珈房サッポロ珈琲館



時計台ガーデンテラス店



■所在地：江別市文京台緑町5 6 1 番 2

■創業：1982年（創業44年）

■店舗数：直営9店舗（FC4店舗）

2022年に本社と焙煎工房を江別市に移転した今年創業44年を迎える自家焙煎珈琲専門店です。世界各国のコーヒー豆生産地に行き、独自に自社契約農園を確立。各生産地の気候風土を活かした個性豊かな最高級品のみを安定して仕入れ提供しています。

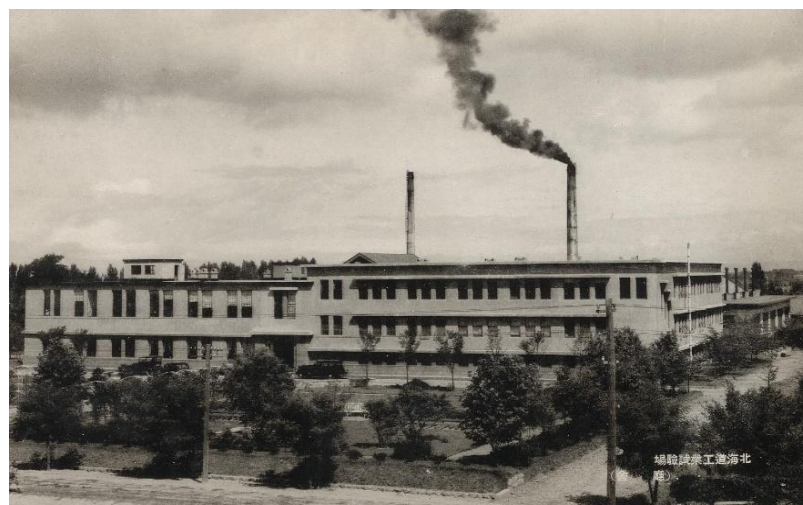
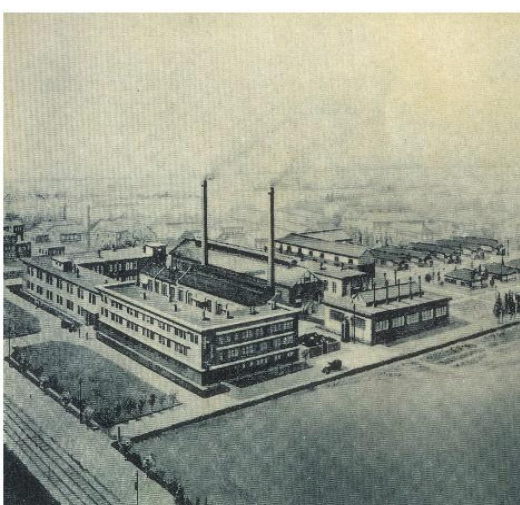
創業以来、全てのコーヒー豆は独自の炭直火焙煎法で焼き上げており、直営喫茶店舗ではネルドリップにて丁寧に一杯ずつ提供する昔ながらのスタイルで地元の常連様や観光客でいつも賑わっております。

また2010年より、北海道の翼“AIRDO（エアドゥ）”全便の機内サービスコーヒーにも採用されており、北海道の珈琲屋として幅広いファンに支持されております。

移転前に本社、焙煎工場として使用していた建物は、

1923（大正12）年、当時最先端の鉄筋コンクリート造で建てられた北海道工業試験場でした。

白い壁に縦長の上げ下げ窓。 当時の面影が随所に感じられる『サッポロ珈琲館 本店』として1989年（平成元年）より、この旧北海道工業試験場であった建物を再利用し、現在は店舗のみ営業しております。

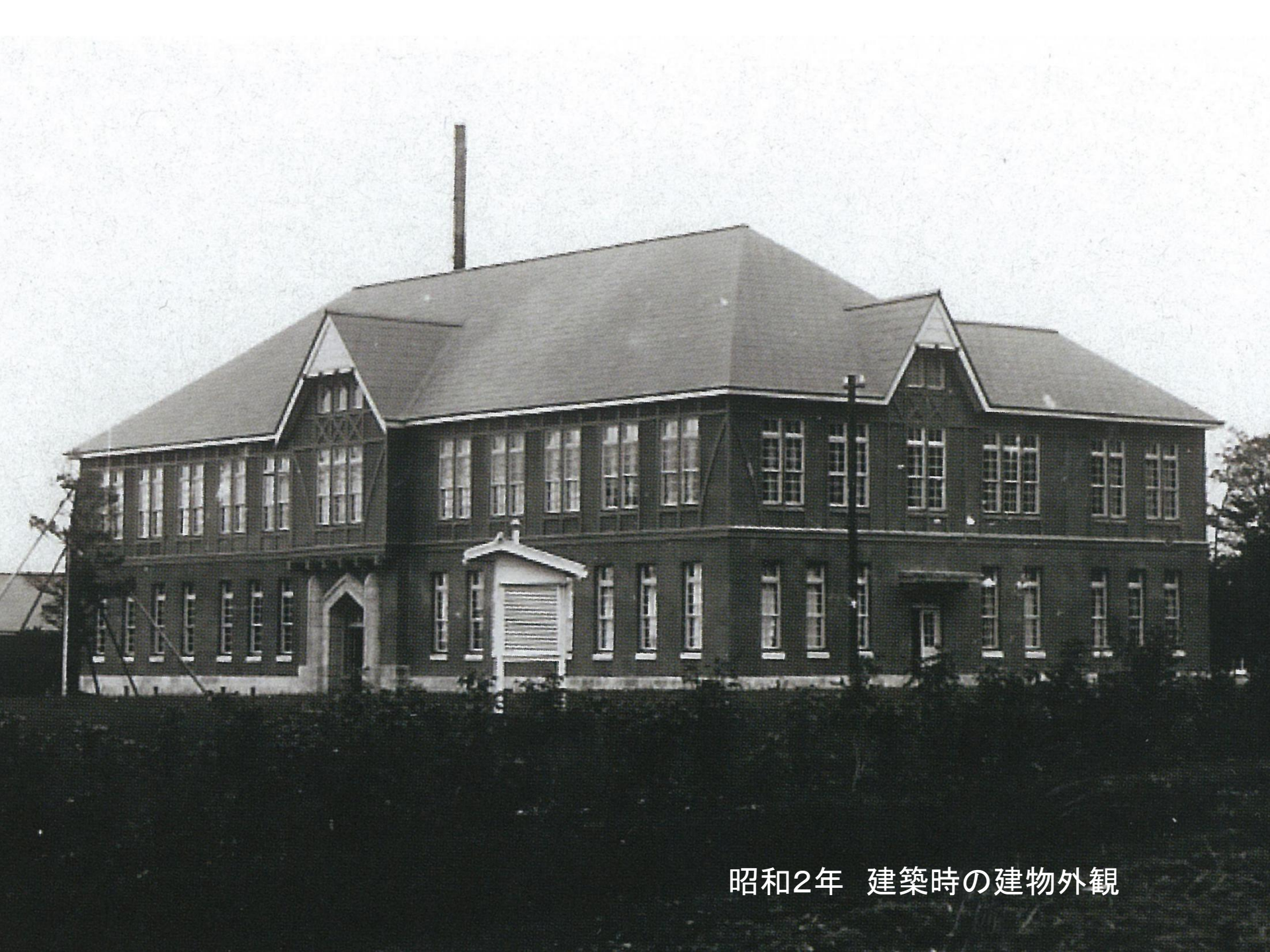




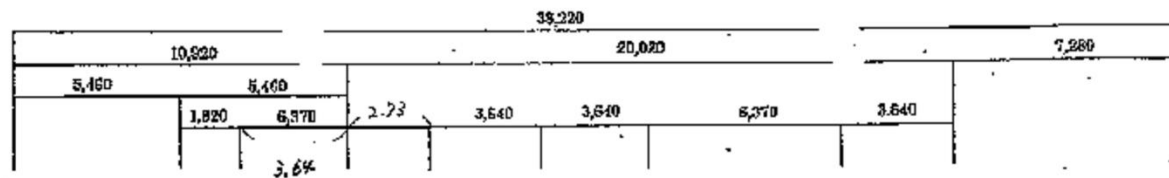
↑江別市より連絡をいただき、最初に見学させていただいた時の建物外観ようす

当時は江別市が管理し、
土日のみトイレの利用開放
や、町内会の会合時に
スペースを貸し出ししていた
ようです。

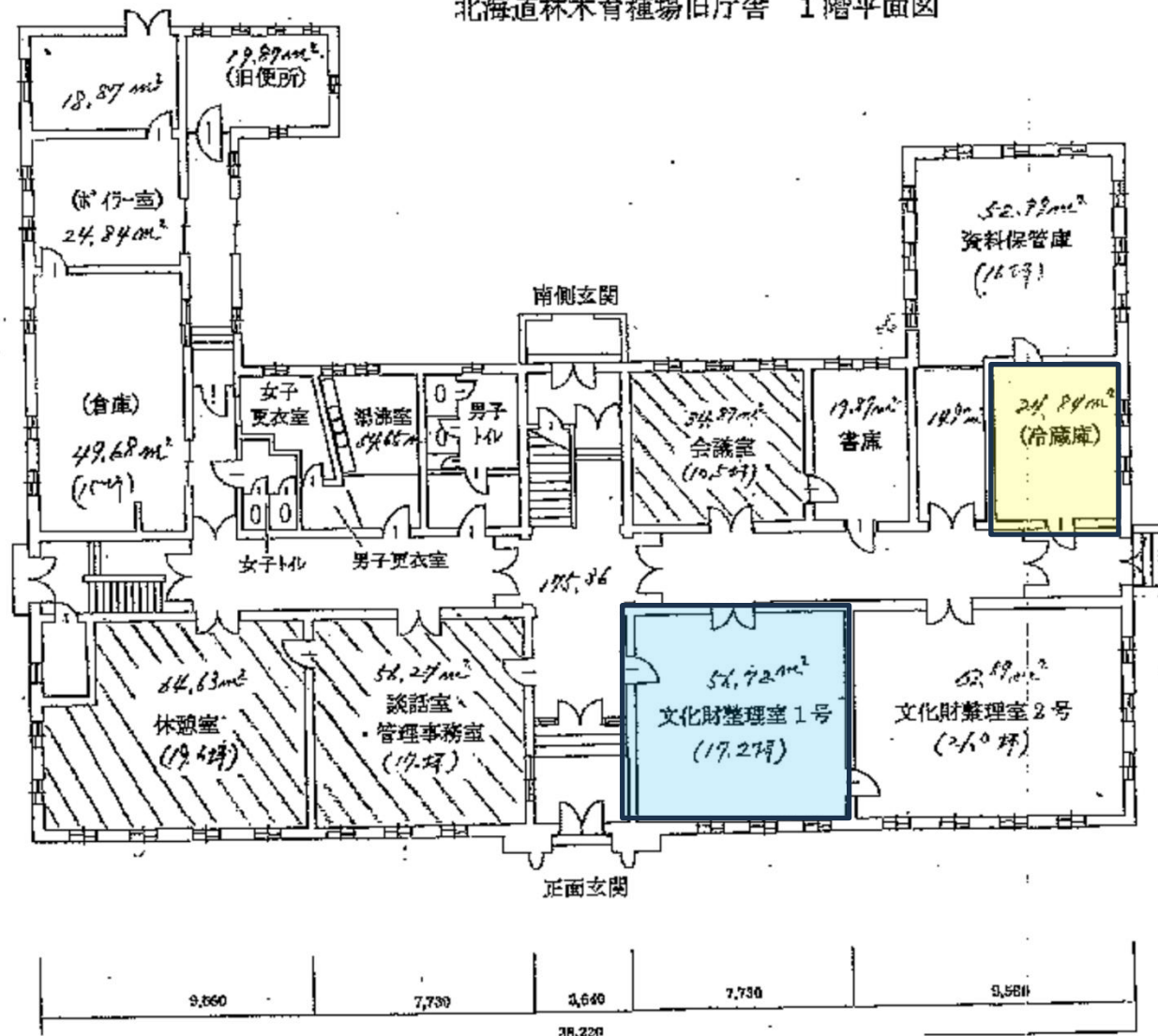





昭和2年 建築時の建物外観



北海道林木育種場旧庁舎 1階平面図



A photograph of a doorway. Above the doorway is a black sign with white Japanese characters. To the left of the doorway is a large, light-colored door. To the right of the doorway is a wooden door frame with a black sign on it. The wall to the right of the doorway is light-colored and has some peeling paint. A light fixture is visible on the wall to the right of the doorway.

冷蔵庫

開放
禁

冷蔵庫と書かれた部屋は、当時ウォークイン
で入ることのできる部屋全体が冷蔵庫として
利用されていたようです。



市の負担で冷蔵庫を全て無くして床面も平らにしてください、コーヒー豆を焼き上げる焙煎機を設置しました。





2022年 開業時のサッポロ珈琲館Rinboku



江別市長、市議会議員、町内会長等、多くの方にご臨席いただきオープニングセレモニーを開催。

check こだわりポイント



ブラジルやコロンビアなどの契約農園で栽培された豆を使用。社長自ら産地に足を運び、栽培方法から輸送方法にまでこだわっています。



焙煎（生豆を加熱する作業）方法は、炭の直火で加熱する“炭火焙煎”を採用。豊かな香りとコクを引き出し、オンリーワンなコーヒーをつくります。



建物の魅力を味わいながら過ごすことができる店内。珈琲ようかんや珈琲ギフト商品なども販売しています。

サッポロ珈琲館 江別【Rinboku】

令和4年5月オープン

株式会社珈房サッポロ珈琲館の代表取締役社長 伊藤仁さんに、お話を伺いました。

本社を移転した理由は？

本社があった琴似駅前の再開発の話があり、移転先を検討していたところで、林木育種場旧庁舎の保存・活用事業者再公募の話がありました。

歴史がある素晴らしい建物なので、創業40周年を迎えるのが社の次のステップにふさわしいと思い応募し、選定委員会で選ばれました。ここで新たな一歩を踏み出せるのが楽しみです。

お店のコンセプトや魅力は？

店内は建物の歴史的な雰囲気を活かしたデザインにしています。非日常的な空間を過ごせるよう、

音楽や照明にこだわっています。

ここでは、サッポロ珈琲館のほかの店舗と違い、「セミセルフサービス」となります。店内やテラス席でゆっくりと過ごしたり、野幌森林公園に隣接しているので、自然を満喫することもできます。お好きな場所でコーヒーをお楽しみください。

新たに企画していることは？

北海道産マスカルポーネを使用した濃厚ソフトクリームなど、江別限定商品を企画しています。江別オリジナルをどんどん作ってきたいです。もちろんほかの店舗と同様に、コーヒーに合う軽食や自社工場で作ったスイーツも用意しています。

また、コーヒーの魅力を伝えるコーヒークラスや建物見学も検討し

ているほか、会合やイベントなどで部屋をお使いいただくことも考えています。

林木育種場旧庁舎の見どころ

- ★ 北ヨーロッパに多くみられる「ハーフトインバー様式」を基調とした、柱・梁・筋交いなどが外部に露出している外観
- ★ 木製ドア、腰壁、木製窓枠などに加え、天井、壁、階段手すりなどに優れた意匠が見られ、豊かな空間を作り出している内部
- ★ サクラやイチイ、カエデなど様々な樹木が植えられており、四季折々の景色を楽しむことができる前庭

- ★ 昭和11年10月、北海道陸軍特別大演習時に、昭和天皇が訪れた歴史ある建物



【詳細】生涯学習課 ☎381-1060



北海道林木育種場旧庁舎に
カフェがオープンします

野幌の高台に建つ北海道林木育種場旧庁舎は、昭和2年に内務省北海道庁所管野幌林業試験場として建築され、当時流行した洋風の外観を持つ建物です。平成13年に歴史的価値が高い建造物として国の有形文化財に登録されています。

平成14年に市が国から購入して休憩場所などに活用してきましたが、令和3年から株式会社珈房サッポロ珈琲館が使用し、本社を移転、直営のカフェがオープンすることになりました。

ボトルコーヒー引換券をプレゼント！

5/20(金)までに広報えべつの感想を送っていただいた方の中から抽選で10名様に、サッポロ珈琲館 江別【Rinboku】の店舗で使える「ボトルコーヒー引換券」をプレゼントします。

【郵送・FAX】〒067-8674 高砂町6 広報広聴課宛 ☎381-1149
【市HPアンケートフォーム】市HP内「広報えべつ」を検索するか右のQRコードを読み込んでください。

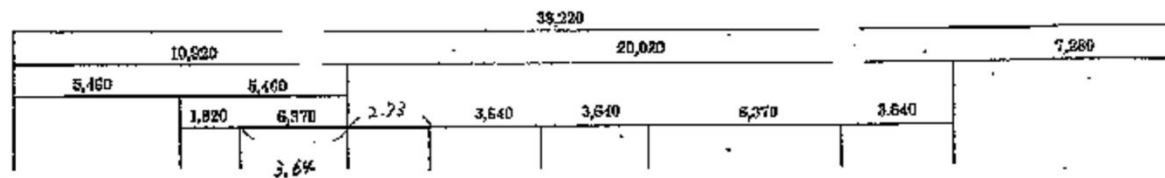
※氏名・住所を必ず記載してください。なお、当選発表は発送をもって代えさせていただきます（引換券は7月まで利用可）



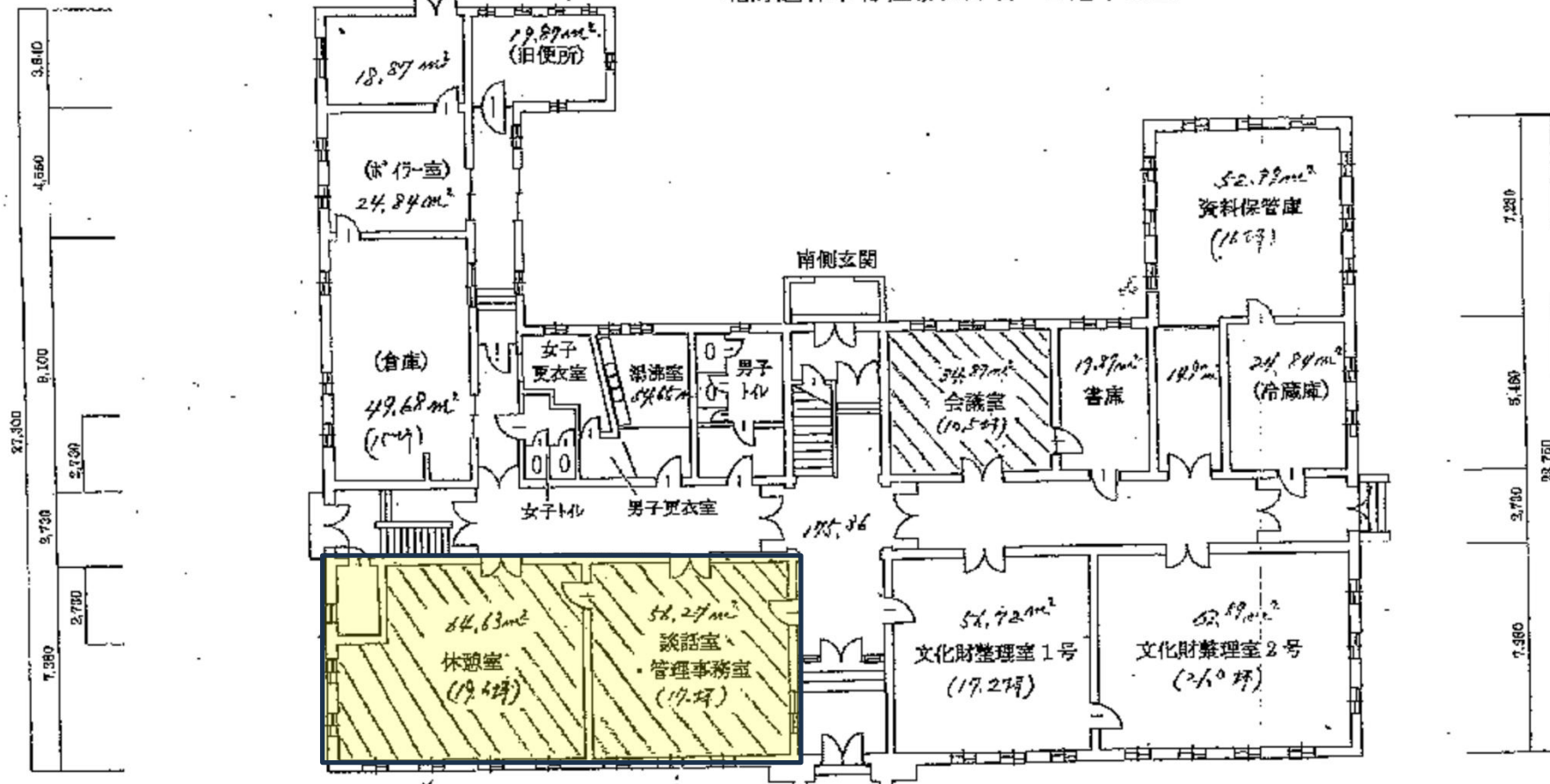
サッポロ珈琲館 江別【Rinboku】

住所 文京台緑町561-2
営業時間 9:30～18:00
☎376-0820 ※駐車場11台あり
5月11日(水)オープン予定

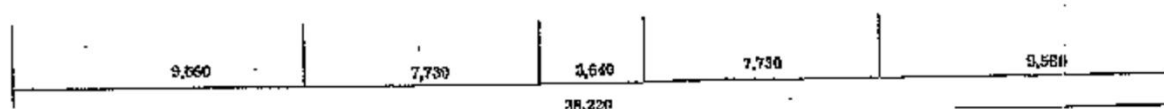
2022年5月号の広報えべつに巻頭で掲載いただきました



北海道林木育種場旧庁舎 1階平面図



2部屋をカフェスペースにリニューアル









通路もギャラリースペースとして市民の方や大学生に貸し出し



建物・歴史探訪セミナー開催



シンガーソングライター桜庭和(江別観光特使) ワンマンライブ



世界的に活躍の切り絵師“百鬼丸”
ライブパフォーマンス

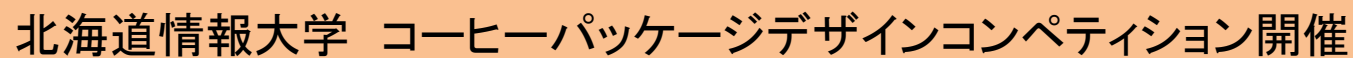


成人式の前撮り撮影会(館内外にて)





カフェRinboku × 北海道情報大学 × 酪農
学園大学によるカフェ新メニュー開発
ワークショップ開催



★まとめ

事業への参画意義(本社ごと移転に至った経緯)と今後の課題

①旧本社所在地における再開発計画によって、まだ先ではあったが本社、工場機能に移転しなければならない状況下の中、江別市より打診があり、公開プレゼンテーションを経て、移転となりました。

→当社としては移転に際し、内装を除く建物自体や土地等にコストをほとんどかけることなく、また無償で契約期間中使用することができる点が最大のメリットと感じ、移転に至りました。

②本社、工場の移転、カフェ新店舗オープンを同時に行う大変さはありませんでしたが、市民の方々にも少しずつ認知され、特にカフェ利用が増えつつあります。

→現在はカフェの利用者のみで年間約2万人。その他にもセミナーやライブ等のイベント参加者や、地元大学生によるワークショップ、本社への来訪者等、多くの方々のコミュニティの場として利用いただいております。

③今後の課題・要望

→昭和2年建築の古い建物であるが故の問題点

例えば、照明器具のほとんどが今後製造中止となる蛍光灯やすでに中止となっている白熱電球のため、建物内全ての照明器具をLED化にしないとはならず、負担となる。

また、下水道の配管構造が昔のままとなっており、移転当初は詰まりが激しく使用できなくなる日もあった。（市により修繕済）

今後の課題として現在2フロアあるうちの1階部分しか主に使用できていないため、消防法に関連する設備の設置等、費用的な問題をクリアしなければならない点もあるが、今後2階部分も市民の方々に気軽に利用いただけるよう建物全体を魅力的なものに、また雪の多い冬期間の維持・管理（除雪や屋根からの落雪等）にも注意し、市街地ではない郊外でも多くの方々にご利用いただけるよう、市、観光協会、商工会議所、地元企業や大学とも連携をさせていただき今後も利活用させていただければと思っています。

